

2012年8月

あのおこがれの味わいをひとりじめ！  
加糖練乳のような濃厚でコクのある味わいを再現した「森永練乳シリーズ」が  
生まれ変わって新登場！

## 「森永練乳プリン モウ〜っと、<sup>ごく</sup>極あま！」 「森永 練乳オレ」

9月4日(火)よりリニューアル発売

～「モウそろそろ、名前がほし〜い！」キャンペーンの結果、名前は「ミルリン」に決定しました！～

森永乳業は、加糖練乳の甘く濃厚でコクのある味わいを再現した「森永練乳シリーズ」の「森永練乳プリン モウ〜っと、極あま！」「森永 練乳オレ」を9月4日(火)よりリニューアル発売いたします。

「森永練乳シリーズ」は、「甘くておいしい練乳を好きなだけ食べたい！」という、子供の頃のひそかな願望を叶えることができる商品です。加糖練乳の定番である「森永ミルク」を彷彿とさせる、牛のキャラクターをあしらったパッケージデザインを採用しています。

「森永そのまま練乳みたいなヨーグルト」は、2010年12月、「甘くておいしい練乳をチューブから好きなだけ食べたい！」という、子供の頃のひそかな願望を叶えることができる、新感覚のデザートヨーグルトとして期間限定で発売し、ご好評いただきました。2011年12月には、「森永そのまま練乳みたいなヨーグルト」の再発売に加え、さらに「森永とろ〜り練乳ライクなプリン」「森永たっぷり飲めちゃう練乳オレ」の2品を新発売しラインナップを強化いたしました。その後、2012年2月にはいちご、2012年5月にはあずき、と練乳と相性の良いフレーバーを期間限定で発売してまいりました。このたび、練乳そのものの味わいを最もお楽しみいただける基本のフレーバー「森永練乳プリン モウ〜っと、極あま！」「森永練乳オレ」をリニューアル発売いたします。

また、5月25日(金)から7月27日(金)で実施いたしました「モウそろそろ、名前が欲し〜い」キャンペーンの結果、加糖練乳「森永ミルク」でもおなじみの、牛のキャラクターの名前は「ミルリン」に決定いたしました。非常に多くのお客さまにご応募いただき、ありがとうございました。



この「ミルリン」は、昭和31年に、当時の「森永ミルク 加糖れん乳」と「森永βドライミルク」(育児用の調製粉乳)の2つの商品に初めて採用されました。

当時はデザイナーがいなかった時代。このキャラクターは画家の方に描いていただいたものです。その後はさまざまな森永乳業の商品パッケージのシンボルとして活躍しています。

そして2012年8月20日(月)、56年目にしてついに名前が決定いたしました。今後ともよろしく願いたします！

## 1. 商品特長

### <森永練乳プリン モウ〜っと、極あま！>

- ① まるで加糖練乳をスプーンで食べているかのような、濃厚でコクのある甘さと、とろ〜りとした食感をお楽しみいただけるプリンです。
- ② 練乳の甘いおいしさがより際立つよう、食感と甘みをブラッシュアップしました。
- ③ あこがれの練乳の味わいを、デザートとしてゆっくりとお楽しみください。

### <森永 練乳オレ>

- ① 練乳使用量を従来品より 10%増量しました。練乳ならではの甘さと、濃厚なミルクの味わいをご堪能ください。
- ② ミルク分 48%のコクのある練乳オレです。そのまま飲んでいただくのはもちろん、いちごにかけて食べるなど、アレンジもお楽しみいただけます。

## 2. 商品概要

①商品名	森永練乳プリン モウ〜っと、極あま！	森永 練乳オレ
②種類別	生菓子	乳飲料
③包装形態	プラカップ、アルミフタ	ゲートトップ
④内容量	115g	500ml
⑤カロリー	143kcal / 1個(115g)あたり	142kcal / 200mlあたり
⑥保存方法	要冷蔵 10℃以下	
⑦賞味期限	90 日間	15 日間
⑧主要ターゲット	20〜30 代男女、主婦	30 代男性
⑨主要売場	CVS、量販店、一般小売店	
⑩希望小売価格	105 円(税別)	130 円(税別)
⑪発売日・地区	9 月 4 日(火)	
※JAN コード	4902720 101127	4902720 100526



<参考資料>

## 「森永ミルク」

加糖練乳「森永ミルク」は大正8年に金属缶タイプで発売され、市場の約60%を占める練乳の定番商品です(数量ベース・金額ベース、2012年6月時点、森永乳業調べ)。

「森永ミルク(チューブ)」は、1985年に発売し、今年で発売27周年を迎えます。近年は、イチゴ・キウイ・バナナ等のフルーツに加えるだけでなく、かき氷にかけたり、コーヒーに入れたり、パンに塗ったりなどさまざまな使用法が浸透しております。



## 練乳の歴史

### 1.れん乳の起源は飛鳥時代

日本に牛乳が伝えられたのは飛鳥時代と言われています。牛乳は腐りやすいので、牛乳をそのままではなく、加熱処理をした「蘇(そ)」が天皇に献上されたと平安初期の記録に残っています。この「蘇(そ)」こそが練乳であったと言われています。



### 2.れん乳が広まったのは明治時代

練乳が日本で商品として作られるようになったのは明治時代のはじめから。練乳は牛乳よりも保存しやすく、貯蔵にも便利であったことから、赤ちゃんや子どものための人工栄養ミルクとして使われていました。



### 3.れん乳をつくる会社としてスタート

森永製菓より発売されていた「森永ミルクキャラメル」の原料である練乳をつくるために、大正6年、森永製菓の子会社として日本練乳が設立しました。この日本練乳が森永乳業の起源です。森永乳業は練乳の生産からスタートした会社なのです。



### 4.大正時代「練乳森永ミルク」発売

大正8年に、一般家庭用の練乳として「練乳森永ミルク」(加糖練乳)が発売されました。練乳は育児用の人工栄養ミルクとして広く使用されていましたが、砂糖が多く含まれています。そこで、育児用ミルクとして適した調製粉乳「森永ドライミルク」が大正9年(1920年)より発売されました。

## 「練乳シリーズ」その他ラインナップ



森永ミルク



そのまま練乳  
みたいなヨーグルト



森永た〜ぷりミルクの  
練乳ラテ

今回リリースの「森永練乳プリンモウ〜っと、極あま!」、「森永練乳オレ」以外にも、左のように、たくさんの商品があるんだもう。



森永れん乳  
ミルクパー



森永れん乳  
モナカ



森永れん乳氷



以上